シリーズ
商学部50周年
9

ゼミOGアドバイス
就活は人生の通過点

「先輩力」・神原ゼミ

OB、OGの中でもとりわけ親しみがわく存在がゼミナールの先輩だ。社会に出て数年の20代の先輩には、就職活動に奮闘中の4年次生も、自分の将来像を描ききれない3年次生も、本音の質問をぶつけやすい。

夏休みを前に、商学部・神原理ゼミでは同ゼミOGの小林未菜さん（平21商、旧姓・大澤）を招き、話を聞いた。いま学んでいることが社会に出てどう役に立つのか。働くとはどういうことか。そもそも就職活動をどうやって乗り切ったのか――。ゼミ生の不安に28歳の先輩が答えた。

◇

参加したゼミ生は3年次生10人、4年次生13人。「Uターン希望」「将来何をしたいか全く未定」と、自己紹介にも進路に関する話題が顔を出す。

「とにかく声が大きく元気な学生だった」と神原教授に紹介された小林さんは卒業後、イトーヨーカ堂に入社。全国転勤のない関東エリア社員として、都内の大型店舗でパンや牛乳、豆腐などのデイリー食品を担当する。在学中から消費者心理やマーケティングリサーチに興味があり、2年次後半から「消費社会における商品研究」をテーマとする神原ゼミへ。念願だった流通業界への就職を果たした。

学生時代は3年間、女子学生対象の課外講座HEIB（ヒーブ）講座（昨年度で終了）を受講。ビジネスマナーや自主性が身についたと振り返る。ゼミのフィールドワークや神奈川産学チャレンジプログラムへの挑戦を通じ「消費者と接する仕事がしたい」と志望業種が固まった。

面接では「明るく元気よく、誰よりも大きな声であいさつするように心がけた」。当時は「日本全国から商品を仕入れるバイヤーになりたい」とOG訪問をしなかったけど、皆さんにはぜひ勧めたいです」

社会人の厳しさを伝える一方で、「就活は通過点でしかない」という一言がゼミ生を勇気づけた。就職して終わりではなく、その先の人生をどう築くのか。3年前に結婚した夫（平20商）は就活中から支えとなってくれた。小林さん自身、いずれ母親になることを念頭に「仕事」を見つめ直す時期にきている。「組織の中でキャリアアップを目指している人もいるし、転職して順調にやっている人、会社の仕事以外に打ち込むものを見つけている人もいる。思うようにこだわるよりも、やりたいことを」とアドバイスされ、うなずいていた。

◇

4年次の男子は「一緒に働きたいと思える人」（佐々木泰地さん）、「軸がしっかりして潔い」（城戸口洋平さん）と先輩に感服した様子。

「接客は大変。就活は接客以外と決めていた」上村紗稀さん（3年次）は百貨店でアルバイト中。小林さんの仕事ぶりを知り、考えが変わったという。江島沙綾さん（4年次）は「キャリアアップより、仕事を通して視野を広げるという考え方に共感しました」。内定をもらった2社の絞り込みに悩んでいた大友智尋さん（4年次）は「待遇の差にこだわるよりも、やりたいことを」とアドバイスされ、うなずいていた。

▲　ゼミ生の質問に笑顔で答える小林さん（右から3人目）。右隣は神原教授

就職課から
体調に留意して

8月に入り大手企業を中心に選考が本格化しています。暑い中での就活ですので、体調には十分留意してください。

暑い時期だからこそ心がけておきたいことをお伝えします。

①Yシャツ・ブラウスの下には肌着を着ること。汗でベタベタのYシャツ・ブラウスを見ると不快なものです。見た目で損をしないように！②ハンカチ、うちわ（扇子）、制汗シート・スプレーなどの暑さ対策グッズも忘れずに。③早めに集合場所の近くに行って、涼しい場所で落ち着く。

ほかにも、ネクタイは最寄り駅に着いてから、上着は建物に入る前に着るなどして、少しでも暑さをしのぎましょう！

就職課では一斉休暇期間中（8月11～17日、土日除く、14日は神田キャンパスは休み）も相談業務を行います。神田は就職課事務室、生田はサテライトキャンパスで、いずれも10～16時が相談対応時間です。

また、4年次以上で就活中の皆さんに向けて、8月24日(月)から26日(水)にはサテライトキャンパスで学内企業説明会を実施します！　3日間で約100社の採用担当者が来校予定です。就活中の方は参加必須！　詳細はポータルサイト、就職支援システム(S-net)でお知らせしていますので確認してください。

最後に、体調管理の基本は食事と睡眠です。夜更かしや冷たいものばかりは大敵ですよ！

就職手帳を配布

就職手帳を徹底活用して内定まで乗り切ろう――。

専修大学オリジナル就職手帳を9月、3年次生に配布する。携帯しやすいA5判で、スケジュール管理と就職活動ガイドが一体となっている。就職課は「この一冊で就職活動を管理できる。一通り目を通して、就活の流れをつかんでほしい」とは話している。

手帳には3年次生が卒業する2017年3月までの月間、週間予定表を掲載。エントリー管理シート、企業研究シートもあり、自由に記入することができる。

巻末の就職活動ガイドでは、全体のスケジュールや手順、エントリー方法のほか、マナーや服装についても細かく解説している。

9月下旬の3年次生の第2回就職ガイダンスで無料配布する。

▶　昨年度の就職手帳

朗読で文学作品を理解
大学院生・飯干さん

大学院で近現代文学を研究する飯干大嵩（まさたか）さん（院文修1＝写真）は、朗読を通じて作品理解を深めている。

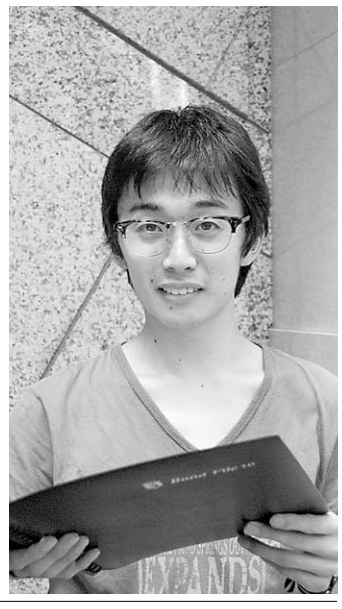
昨年10月の日本朗読文化協会主催の朗読コンクールでは、宮澤賢治の短編童話『虔十公園林（けんじゅうこうえんりん）』を朗読して学生の部で最優秀賞を獲得。飯干さんにとって初の最高賞だった。「朗読の日」（6月19日）翌日に都内で開かれた同協会イベントに出演し、創作民話『ベロ出しチョンマ』（斎藤隆介）を感情豊かに読み上げた。

詩歌や文章を朗々と読む―朗読の魅力を「素直に声を出す面白さがあると同時に、作品を通じて自分の感性を表現できる」と飯干さんは話す。

故郷・宮崎市では中学・高校と放送部に所属。NHK杯全国高校放送コンテストの朗読部門に出場したのをきっかけに朗読の道に入った。これまで大会、コンテストなどに通算20回以上出場、数々のパフォーマンスライブに出演している。

文学部のゼミから大学院まで、高橋龍夫教授の指導の下、村上春樹作品を中心に研究している。朗読作品は村上の『蜂蜜パイ』や芥川龍之介の『トロッコ』など。

朗読で大切なのは「間の取り方」と強調。登場人物の心情も、聞き手の関心をいかに引き寄せるかも、「間」ひとつだ。「聞き手と呼吸が合い、一体感が得られた時に醍醐味（だいごみ）を感じますね」



KSアカデミー公開講座開く

「KS（川崎・専修）ソーシャル・ビジネス・アカデミー」（アカデミー長＝遠山浩経済学部教授）の公開講座が8月1日、サテライトキャンパスで開講された。

子どものキャリア教育に取り組む認定NPO法人「キーパーソン21」代表理事の朝山あつこ氏が講師を務め、起業のきっかけやこれまでの取り組みについて話した。「良い人材と良いプログラムがそろって良い活動ができる」「活動には学校や企業など周囲の理解が必要」など15年間の活動に裏打ちされた言葉を、約40人の来場者たちは熱心に聴講。ソーシャル・ビジネスの実践者ということで、特に会計についての質問が寄せられた。

KSアカデミー　川崎市・専修大学共同市民ビジネス人材育成事業、専修大学大学院経済学研究科特別教育プログラムとして、川崎市と専修大学が共同で開講している社会人向け講座。

★受講生募集★

2015年度受講生を募集します。

◇開講期間＝9月29日（火）～2016年2月18日（木）◇募集＝受講生30人、部分履修生10人◇場所＝専修大学サテライトキャンパス◇申込期間＝8月20日（木）～9月9日（水）16時まで（必着）

講座説明会を8月20、27日、9月3日に実施（いずれも19時～）。8月22日には第2回公開講座を開催。いずれもサテライトキャンパスで。

問専修大学大学院事務課KSアカデミー係☎044・922・9384

図書館で防災展

9月1日の防災の日を前に、生田キャンパス図書館本館では「未来を生き抜くチカラ　防災！」と題して、防災に関する書籍や防災グッズを展示している。地震や土砂災害など、万が一の事態が発生したときに、どのように身を守るか考えてもらおうと、生田キャンパスの防災訓練（7月6～10日）に合わせて初めて企画した。

防災術など身近な問題について解説した図書や地図など約30冊を展示。2011年の東日本大震災の発生当時の状況や復興の様子を記録した「石巻専修大学報告書」も並んでいる。7月中は展示コーナーで東日本大震災の記録DVDも上映。川崎市発行のハザードマップ、防災手帳など18種類のリーフレットを配布している。このほか非常用持ち出し袋などの防災グッズも展示している。

展示は9月17日（木）まで。

▶　防災に関する書籍を展示している生田キャンパス図書館本館